



スキー場諸元

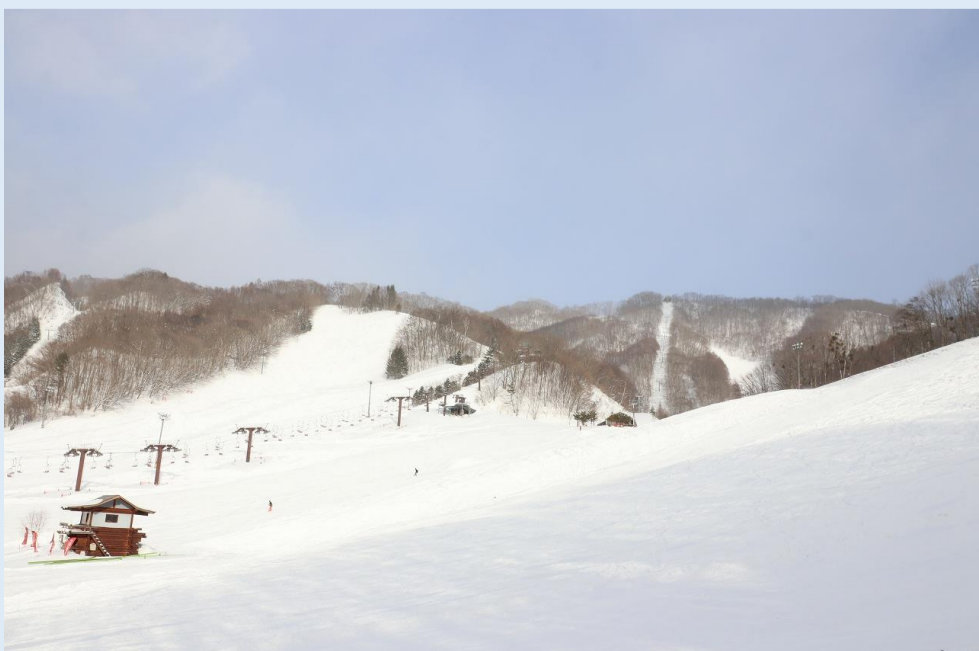
名称：スノーパーク尾瀬戸倉

総面積	54 ha
コース数	9 本
標高差	315 m (1,077 m-1,392 m)
最大斜度	38 度 (荒山)
リフト総延長	2,998 m
リフト数	6 基
事業者	(株)P&C尾瀬
開業時	(財)尾瀬労働勤労者休暇センター

“尾瀬の最奥”歴史あるアクティブなスキー場

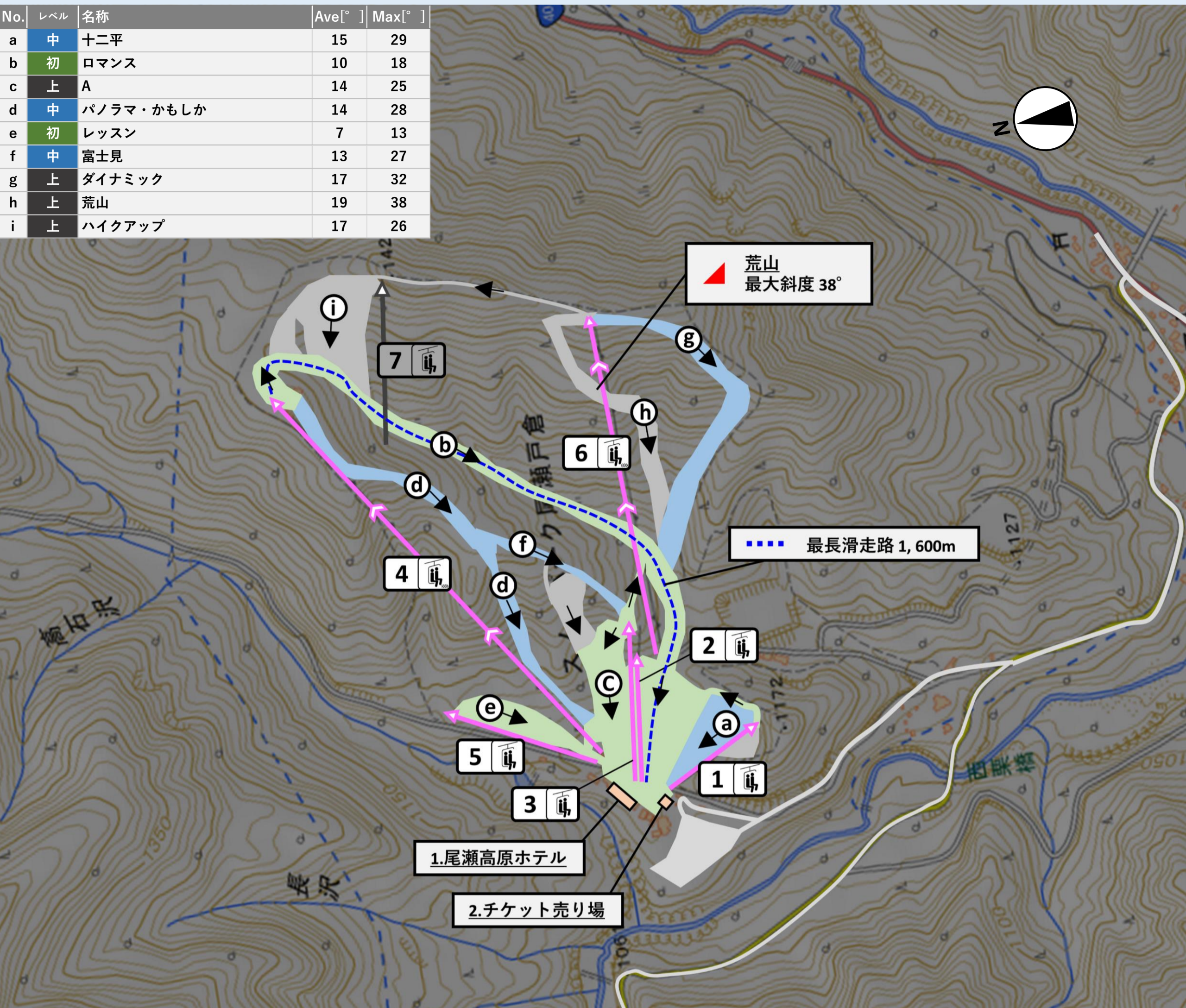
スキー場開業は1962年であり尾瀬エリアでは最も歴史あるスキー場。ゲレンデはコンパクトながら、中斜面・上級者斜面が揃っており滑走満足感を感じられる構成になっている。特に**(b)**ロマンスコースは谷状の地形ゆえハーフパイプのような斜面がつづき、コースにはジャンプ・ジブ等も流れるように配置されているため飽きなく非常に楽しめるコースとなっている。また、尾瀬戸倉のホームページに「#戸倉はすいている」と宣伝されていることもあって人はまばらであり、2本の適度な位置に架けられた高速ペアリフトでストレスなしに滑走を楽しめる。さらに、リフト券も近隣スキー場と比べて大変良心的な価格設定となっており、平日は2,500円で滑れる日もある。尾瀬戸倉はファミリーにも優しいスキー場であり、第4ペアリフト沿線の**(e)**レッスンコースは、他のコースと完全隔離されているうえに比較的幅が広いので、子供や初心者でも安心して滑ることができる。

近年はリフトを含めた設備や施設に投資されていないように感じ、スキー場全体は俗に言う昭和な印象を受ける、また、おしゃれ感はあまり感じられないため、滑りに専念したい方向けのスキー場といえる。



コースマップ

No.	レベル	名称	Ave[°]	Max[°]
a	中	十二平	15	29
b	初	ロマンス	10	18
c	上	A	14	25
d	中	パノラマ・かもしか	14	28
e	初	レッスン	7	13
f	中	富士見	13	27
g	上	ダイナミック	17	32
h	上	荒山	19	38
i	上	ハイクアップ	17	26



No.	定員	形式	フード	名称	キロ程[m]	キロ程グラフ	山麓標高[m]	山頂標高[m]	高低差[m]	高低差 グラフ
1	2	CLF	-	第1ペア	244		1,077	1,152	75	
2	2	CLF	-	第2ペアA	244		1,082	1,130	47	
3	2	CLF	-	第2ペアB	328		1,082	1,163	81	
4	2	CLD	-	第3高速ペア	1,075		1,085	1,356	271	
5	2	CLF	-	第4ペア	298		1,090	1,128	38	
6	2	CLD	-	第5高速ペア	809		1,124	1,392	268	
7	2	CLF	-	▲第6ペア	374		1,281	1,404	123	

■ : 連絡線 ▲赤字 : 休止中/廃止

▼(b)ロマンスコース上部

コース脇には壁があり楽しめる。



▼(h)荒山コース

距離が長く急斜面のためかなりのハードバーン



駐車場・アクセス情報



P1.屋外駐車場

時間(平日) 24時間利用可

(休日) 24時間利用可

料金(平日) 無料

(休日) 無料

収容台数 約900台

・未舗装

▼ ① 駐車場入口



▼ ② 駐車場からゲレンデまでは上り坂

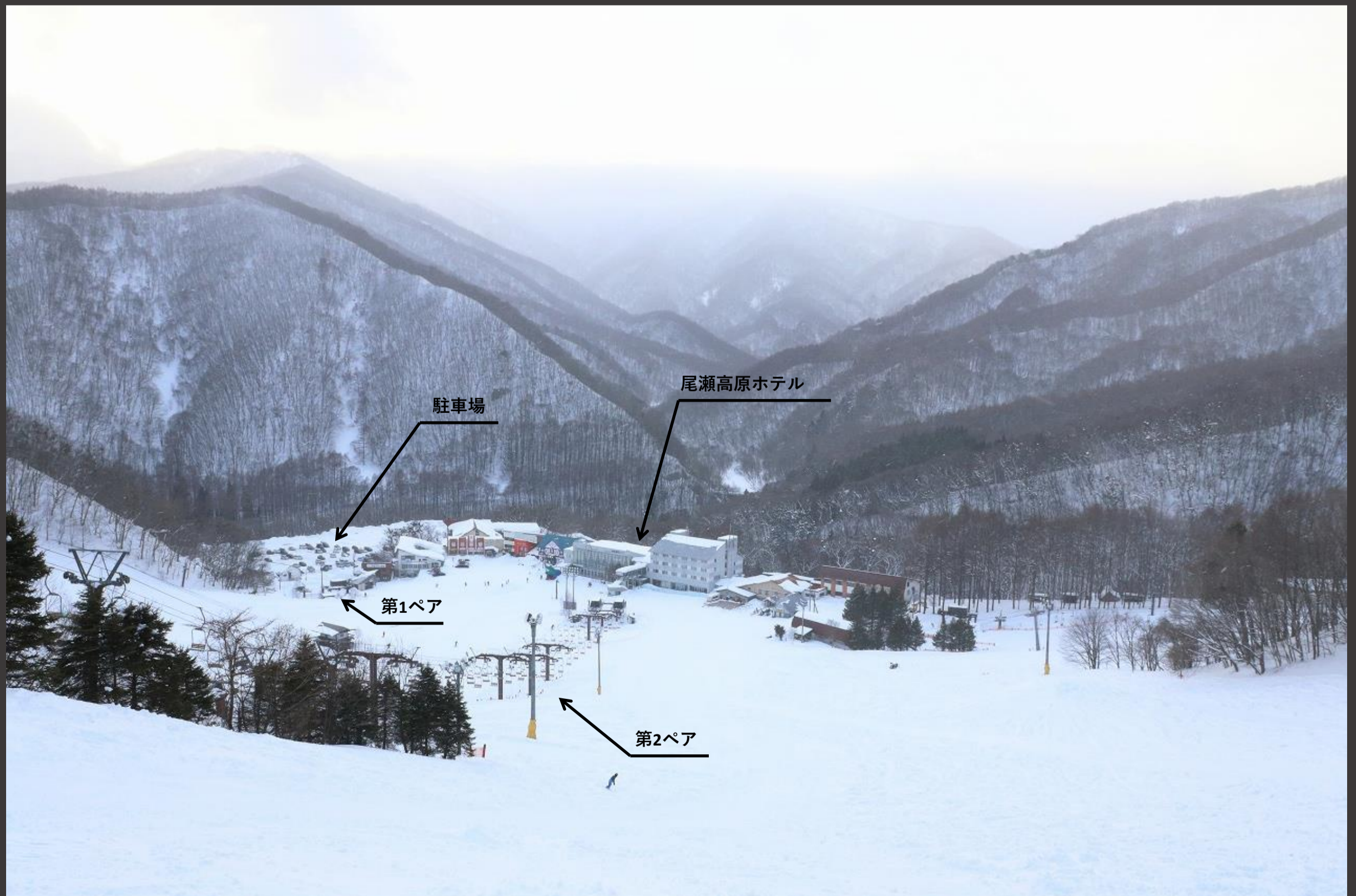
チケットを購入したら最初に第1リフトに乗車すると、楽に第3高速や第5高速ペアに滑り込める。



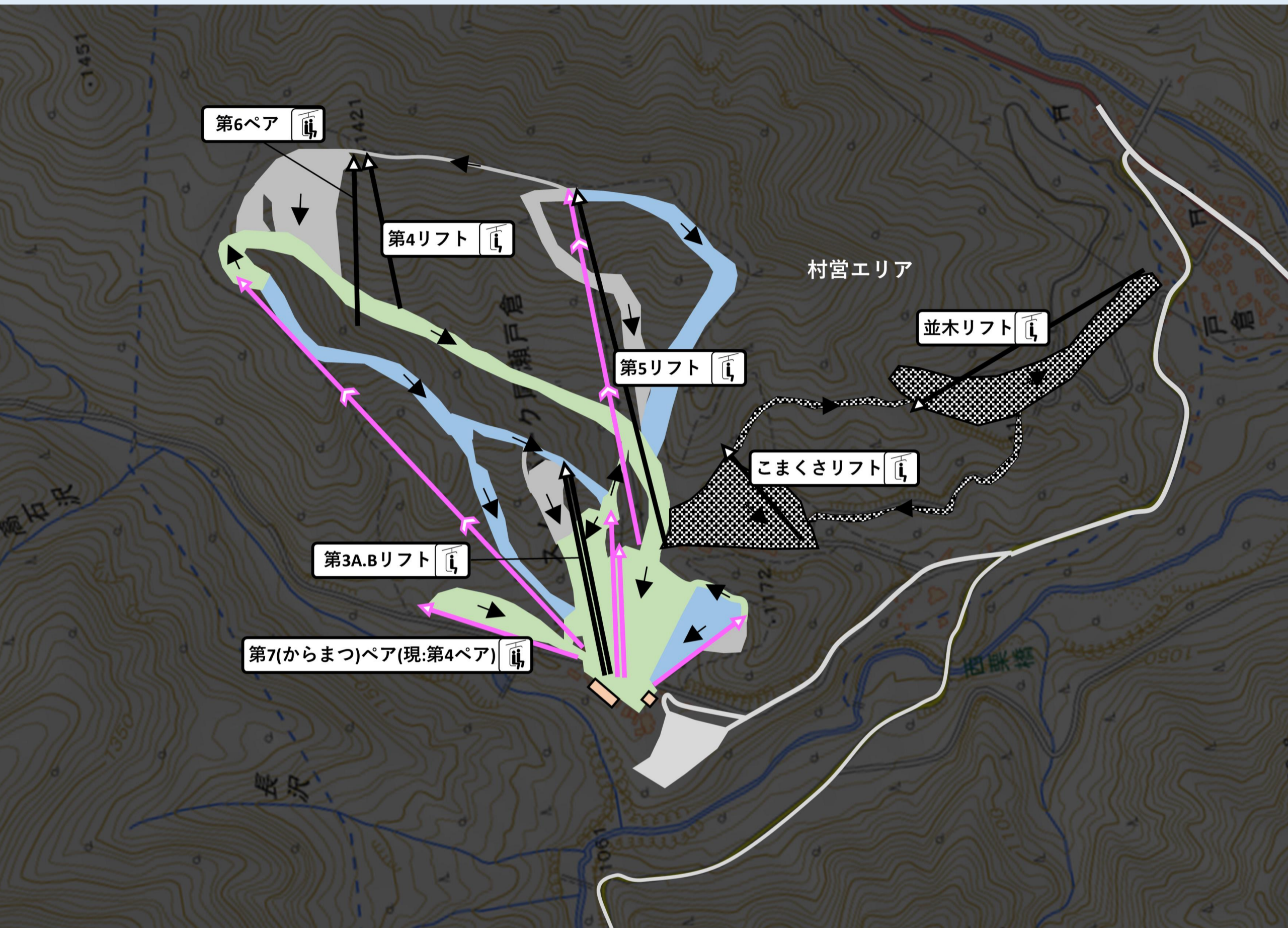


▼第5高速ペアは安全索道製のペアリフトの中でも珍しい搬器。





消えた並木・こまくさゲレンデ



定員	形式	フード	名称	キロ程[m]	運行年	1962	1962~	1965~	1970~	1975~	1980~	1985~	1990~	1995~	2000~	2005~	2010~	2015~	2020~	2025~	備考	
1	CLF	-	第1リフト	244	1962~1985?	■															第1ペアに架け替え	
2	CLF	-	第1ペア	244	1985?~																	
1	CLF	-	第2リフト	237	1962~1985?	■																第2ペアに架け替え
1	CLF	-	第2リフトB	343	1976~1985?																	第2ペアに架け替え
2	CLF	-	第2ペアA	244	1985?~																	
2	CLF	-	第2ペアB	328	1985?~																	
1	CLF	-	第3リフト	486	1962~1985?	■																廃止
1	CLF	-	第3リフトB	499	1971~1985?																	廃止
2	CLD	-	第3高速ペア	1,075	1989~																	
1	CLF	-	第4リフト	423	1966~1995?																	廃止
2	CLF	-	第4ペア(旧:第7リフト)	298	1986~																	
1	CLF	-	第5リフト	763	1979~1994																	第5高速ペアに架け替え
2	CLD	-	第5高速ペア	802	1994~																	
1	CLF	-	第6ペア	374	1982~2015?																	休止
1	CLF	-	こまくさりフト	270	1969~1995?																	廃止(村営)
1	CLF	-	並木リフト	635	1970~1995?																	廃止(村営)

消えた並木・こまくさゲレンデ

尾瀬戸倉は1962年開業であり、尾瀬エリアでは最も歴史あるゲレンデである。開業時は第1~3リフトのみであったが、1967年シーズンに第4リフトが上部エリアがオープンした。その後、1970年頃にスキー場正面右側にこまくさ・並木ゲレンデが完成し、民宿街がある尾瀬戸倉温泉までスキーでのアクセスが可能となった。並木ゲレンデは温泉街からアクセス可能な位置にコースがあり、こまくさゲレンデと細いコースで連絡していたと考えられる。こまくさゲ

レンデは、200mのシングルリフト一本のみの短いコースであったが、中斜面でこぶある斜面であった。2つのゲレンデは1990年半ばごろに廃止されており、現在はこまくさゲレンデはサッカー場、並木ゲレンデは野球場になっており当時の姿は見る影もない。

1.第1ペア



線路諸元

名称：第1ペア

方式	単線固定循環式特殊索道
傾斜長	244 m
高低差	75 m
輸送能力	1,200 p/h
回転方向	時計
支柱数	6 基
速度	? m/s
定員	2 名
搬器	旧型
原動出力	? kW
緊張方式	油圧
原動位置	山麓
緊張位置	山麓
事業許可年月	1962年10月
運行開始年月	?
メーカー	日本ケーブル

▼山麓停留所



▼山頂停留所



1.第1ペア



尾瀬高原ホテル

1.第1ペア



2.第2ペアA



▼山麓停留所



▼山頂停留所



線路諸元

名称：第2ペアA

方式	単線固定循環式特殊索道
傾斜長	244 m
高低差	47 m
輸送能力	1,200 p/h
回転方向	時計
支柱数	7基
速度	? m/s
定員	2名
搬器	旧型
原動出力	? kW
緊張方式	油圧
原動位置	山麓
緊張位置	山麓
事業許可年月	1976年8月
運行開始年月	?
メーカー	日本ケーブル

3.第2ペアB



線路諸元

名称：第2ペアB

方式	単線固定循環式特殊索道
傾斜長	328 m
高低差	81 m
輸送能力	1,200 p/h
回転方向	時計
支柱数	9 基
速度	? m/s
定員	2 名
搬器	旧型
原動出力	? kW
緊張方式	油圧
原動位置	山麓
緊張位置	山麓
事業許可年月	1962年10月
運行開始年月	?
メーカー	日本ケーブル

▼山麓停留所



▼山頂停留所



2,3.第2ペア



4.第3高速ペア



▼山麓停留所



▼山頂停留所



線路諸元

名称：第3高速ペア

方式	単線自動循環式特殊索道
傾斜長	1,075 m
高低差	271 m
輸送能力	1,200 p/h
回転方向	反時計
支柱数	12 基(六角柱)
速度	4.0 m/s
定員	2 名
搬器	分割2人乗り
原動出力	? kW
緊張方式	油圧
原動位置	山麓
緊張位置	山頂
事業許可年月	1988年10月
運行開始年月	1989年12月
メーカー	安全索道

4.第3高速ペア



4.第3高速ペア



4.第3高速ペア



非常に珍しい六角柱

フード付きクワッドでも採用されている、一人ずつ独立した搬器搬器構造は、よくあるペアと変わらない。

4.第3高速ペア



4.第3高速ペア



5. 第4ペア



線路諸元

名称：第4ペア

方式	単線固定循環式特殊索道
傾斜長	298 m
高低差	38 m
輸送能力	1,200 p/h
回転方向	反時計
支柱数	6 基
速度	? m/s
定員	2 名
搬器	旧型
原動出力	? kW
緊張方式	油圧
原動位置	山麓
緊張位置	山麓
事業許可年月	1986年9月
運行開始年月	1986年12月
メーカー	日本ケーブル

▼山麓停留所



▼山頂停留所

No Image
Available

6.第5高速ペア



線路諸元

名称：第5高速ペア

方式	単線自動循環式特殊索道
傾斜長	809 m
高低差	268 m
輸送能力	1,440 p/h
回転方向	時計
支柱数	15 基
速度	4.0 m/s
定員	2名
搬器	新型
原動出力	? kW
緊張方式	油圧
原動位置	山麓
緊張位置	山頂
事業許可年月	1994年8月
運行開始年月	1994年12月
メーカー	安全索道

▼山麓停留所



▼山頂停留所



6.第5高速ペア



1990年後半より登場した安索新搬器。見た目は日本ケーブルのモデルEと似ており、安索の標準となると見えたが、2020年代の新設リフトでは採用されていない。三菱・太平・樫山と共通モデルとも考えられる。

非常に珍しい六角柱

6.第5高速ペア



6.第5高速ペア

▼搬器発車間隔は通常の6秒ではなく、5秒であり輸送能力が増強されている。
また、山麓・山頂駅舎は車庫線も兼用のため、大きめの構造となっている。
未確認であるが、5.0m/s対応のリフトの可能性はある。



6. 第5高速ペア



6. 第5高速ペア



7.第6ペア



線路諸元

名称：第6ペア

方式	単線固定循環式特殊索道
傾斜長	374 m
高低差	123 m
輸送能力	1,200 p/h
回転方向	時計
支柱数	9 基
速度	? m/s
定員	2 名
搬器	旧型
原動出力	? kW
緊張方式	油圧
原動位置	山麓
緊張位置	山麓
事業許可年月	1982年9月
運行開始年月	1982年12月
メーカー	日本ケーブル

▼山麓停留所



▼山頂停留所

No Image
Available

7.第6ペア

